

大学教育としての体育

第2報：「正課体育に関する調査」からとらえた学生の意識

佐 渡 清 隆

はじめ

大学体育の改革が問われて既にかかなりの年月が経過している。今日において、大学教育全体の改革の一環としての大学体育のあり方や内容・方法上の問題が提起され、これらの改革にかかわって大学体育関係者に強く、それらの改善をせまられている時期はあるまいと考えられる。また一方国民のスポーツへの志向という視点から国民の関心をおのずと大学体育と社会体育との関連において注目していることも見逃せないと思われる。大学体育のもつ役割は、健康教育によって健康に関する知識を修得させ、それを日常生活の上に活用させるとともに、将来社会の指導者として職場や地域社会をリードする素養を与えるとともに、一方体育実技によって運動欲求を満足させ、かつ感情の良き捌口を得させ、健康の保持増進に役立たせるにある。さらに実技における授業より友を得させる機会となり、学生間に好ましい人間関係を醸成させ、社会的性格の育成の一助ともなる。また将来のスポーツやレクリエーションの技術や方法それへの習慣や態度の習得は課外活動にまで進展して学生生活に潤いを与え、それを生き生きしたものにするのみならず、卒業後生活を豊かにする基礎ともなるのである。しかし、過去においての「高度成長時代」から、今日の「低成長安定時代」といわれる一連の社会の変貌に対応してそぐわない面も多く、上記の大学改革問題点として、再検討されなければならない。

今回、因みに半ヶ年の期間が積雪地にある北海道の小規模な入学定員、400名で正課体育は実技を中心として、2年次までと原則として4単位必修の北星学園大学（以下本学）と降雪が殆んどなく、大規模な国立大学

でも最も施設・設備が整っている入学定員1,570名（体育専門学群240名を除く一般学生1,330名）で正課体育は、実技を中心として各学年1単位として、計4単位で必修としている筑波大学（以下筑波大）との間（表1参照）で学生の身体的能力（健康・体力・運動能力）精神的能力（生きがいの充実度・生きがいを求める欲求）環境的要因（遊びの環境の満足度・スポーツ経験）の諸項目を「正課体育に関する調査」の資料により、比較・検討を試み、正課体育のカリキュラム編成とその教育方法の改善に資するためと実技指導に役立たせることをねらいとしている。

表1 正課体育開設種目一覧

北 星 学 園 大 学				筑 波 大 学				
教官数 7名（非常勤含む）				教官数 約42名（非常勤含む）				
開設種目	コマ数	履習人数	開設種目	コマ数	履習人数	開設種目	コマ数	履習人数
サッカー	3	119	サッカー	12	432	陸上	12	214
野球	3	119	野球	4	184	ラグビー	4	128
ソフトボール	2	101	ソフトボール	4	173	弓道	2	51
ハンドボール	2	58	ハンドボール	8	244	器械運動	3	42
テニス(軟)	5	212	テニス(硬)	12	496	トレーニング	12	380
バレーボール	5	223	バレーボール	6	242	剣道	7	244
バスケットボール	6	280	バスケットボール	8	322	柔道	11	193
バドミントン	6	144	バドミントン	6	246	サイクリング	6	192
卓球	6	178	卓球	4	177	オリエンテーリング	4	145
ゴルフ	1	23	ゴルフ	5	120	水泳	11	220
ダンス	2	56	ダンス			基本運動	5	130

調査および分析方法

「正課体育に関する調査」（以下調査・付属資料参照）は、本学では昭和55年7月14日～22日、比較対象大学、筑波大は昭和52年9月26日～30日にわたって実施した。両大学ともこの調査は質問紙法による集団面接聴きとり法で実施した。回収率は、本学92.8%（782名）筑波大83.3%（一般学生3175名）であった。調査の枠組は、学生のスポーツ行動を学生の生活行動全体のうちに位置づけ、正課体育の教育効果、影響をスポーツ行動→余暇活動→生活行動までおよぶと仮定した。分析方法は、① 生

大学教育としての体育

活行動については、学生の生活目標を充実した生活の実現におき、神谷美恵子の7つの生きがいの対象領域のフレームを用いた。② 健康・体力の維持、増進とスポーツ行動の関係分析には、社会調査法を用いて処置を行った。③ スポーツ生活の環境については、学生側から評価、ニーズ分析を行った。また今回の集計は、単純集計である。

結果および考察

I 身体的能力について

(1) 健康・体力についての自信

表2 健康・体力に対する自信

大 学	性 別	項 目	健康で体力に も自信がある	健康だが体力 には自信がない	健康にも体力 にも自信がない
北星大	男子		40.2 %	49.8 %	9.6 %
	女子		25.2	63.2	11.3
筑波大	男子		31.7	57.5	10.5
	女子		18.5	73.4	8.0

表2に示した3側面から把握してみると全体では、およそ9割の者が健康か体力に自信があり、1割の者がどちらも自信がないという結果を得た。男女差はみられるが特徴としては、「健康で体力にも自信がある」の項目で男子の方（本学40.2%筑波大31.7%）が女子（本学25.3%筑波大18.5%）よりも上回っているが「健康にも体力にも自信がない」の項目では男女の差は認められない。また、本学の男女とも健康で体力にも自信があるものの数は、筑波大より上回っている。

(2) 運動能力についての自信

図 1 運動能力についての自信

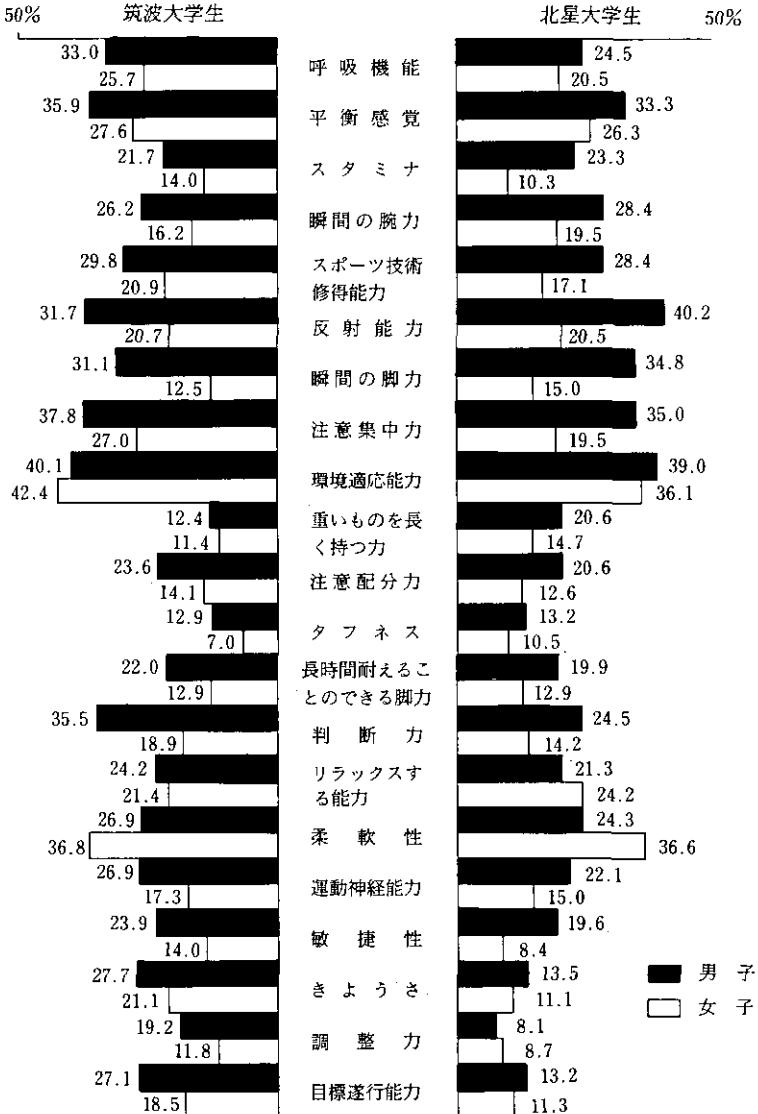


図1に示すように運動能力については、21項目の各運動能力に対する学生の自己評価を求めた。全体的にみると、男女差は認められるが、健康・体力に対する自信と異なり、運動能力については、男子がすべて上回っておらず、本学で柔軟性(36.6%)をはじめリラックス能力(24.3%)調整力(8.7%)と筑波大は環境適応能力(42.4%)柔軟性(36.8%)が男子より女子の方が自信をもっている。本学と筑波大での比較では、男女とも僅差であるが、筑波大が運動能力についての自信を持っている。また、全項目に対する運動能力についての自信の傾向は類似している。特徴としては、本学の男子で上回っているのは、反射能力(8.5%)であり、目標遂行力(13.9%)器用さ(14.2%)呼吸機能(8.5%)は筑波大の男子が本学の男子より自信を持っている。また女子において、本学はタフネス(3.5%)が僅かであるが上回っているが、筑波大では器用さ(10.0%)判断力(9.7%)注意集中力(7.5%)目標遂行力(7.2%)が優位を示している。さらに、男女間においても、基礎能力にかかわるもの本学では瞬間の脚力(19.8%)反射能力(19.7%)スタミナ(13.0%)スポーツ技術修得能力(11.3%)敏捷性(11.2%)、筑波大で瞬間の脚力(18.6%)反射能力(11.0%)敏捷性(9.4%)があげられる。

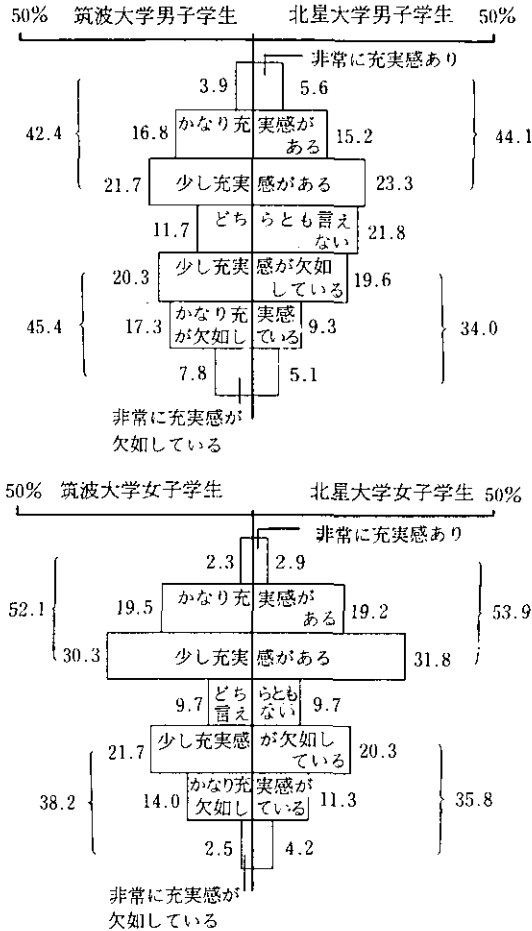
また、精神的体力にかかわるもの本学では注意集中力(15.5%)判断力(10.3%)、筑波大で判断力(16.6%)注意集中力(10.8%)が顕著な差がみられたことと、運動能力についての自信のないもの本学の調整力(男子8.1%女子8.7%)敏捷性(女子8.4%)筑波大のタフネス(女子7.0%)が目すべきことである。身体的能力について、健康が体力に自信があるものが、9割を示し、どちらも自信がないものは1割である。また運動能力については、男子は女子に比べて自信を持っているが、基礎能力にかかわるものに自信がない割合が多いことなどと、健康・体力に自信がないものを含めて推察すれば、正課体育におけるカリキュラムの作成時と実際のスポーツ指導においての問題が指摘された。今後少なくとも健康・体力と運動能力との関係、また体力診断テストの結果等から検討する必要が確認された。

II 精神的能力について

(1) 生きがい充実度

正課体育においても、学生の余暇生活の活発化、生涯スポーツへの志

図2 生きがい充実度



向などを目指すにあたって、学生の日常どの程度生きがいを感じているかを知ることは、重要である。7段階評価の自己申告の質問を設定した結果は、図2に示したもので、両大学男女とも生きがい感は、2極化し

ている点に大きな特徴がみられる。本学と筑波大での比較でみると、「充実感あり」は本学男子44.1%女子53.9%筑波大男子42.4% 女子52.1%である。一方、「充実感なし」は本学男子34.0% 女子35.8% 筑波大男子45.4% 女子38.2% であり、両大学の女子の方が生きがいが高いといえる。また、本学の男女とも筑波大の学生より生きがい感の割合が僅差であるが高い。

(2) 生きがいを求める7つの欲求

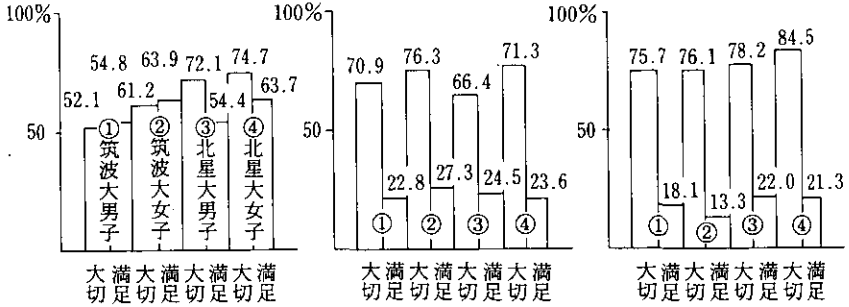
生きがいの問題を検討するには、神谷美恵子の生きがい論が一般的に有効な手掛りになると思われる。従って、神谷の生きがい論から、生きがいを求める欲求に対応して、生きがいの対象として7つの欲求をあげている。即ち、① 生存充実感への欲求 ② 変化の欲求 ③ 未来性への欲求 ④ 反響への欲求 ⑤ 自由への欲求 ⑥ 自己への欲求 ⑦ 意味と価値への欲求 である。このフレームに従って作成した。

7つの生きがいを求める欲求に対して、その大切度と満足度を質問した結果を 図3 に示した。両大学の男女間の差違について検討するならば、男子では、「自由を求め、人間関係を大切にし、未来に期待する心を大切にしている」割合が高く 女子では、「平和で人間関係を大切にしたいを送り、かつ生活変化を求めている」といえよう。本学と筑波大との比較では、類似傾向で本学の男女とも「人間関係」を大切に、かつ満足している割合が筑波大の男女より高くなっている。全体的にみれば、「人間関係を大切にしたい」「自由を求める心」「生活に変化を求める心」「自由を表現する心」の大切度の割合が高い。また、「未来に期待する心」の大切度の割合は高いが満足度の割合は低い。

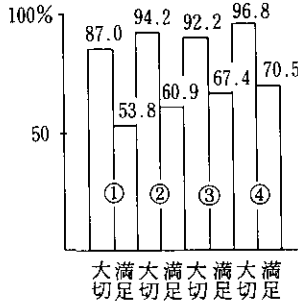
精神的能力について、まず生きがい感は、「生きがいあり」と「生きがいなし」において、2極化の傾向である。さらに男子学生よりも女子学生の方が生きがい感が高い割合であることが明らかになった。しかしながら、「生きがいなし」としたものと、「生きがいあり」の方向に移行させる方法を検討する必要があるとみられる。このことは、何らかのスポーツ活動を日常生活に定着させて、スポーツを通して集団としてプレーする方法が生きがい充実度を高める可能性を有するのではないかと考えられる。正課体育においても重要な検討すべき課題である。また、生きがいを求める7つの欲求では、「変化を求める心」「自分を表現する心」

図 3 生きがいを求める7つの欲求の一般傾向

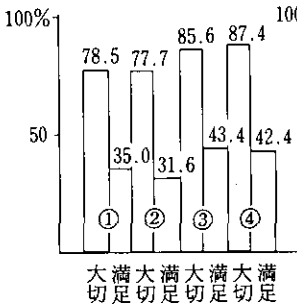
1. 平和な学生生活を求める心 2. 生活に変化を求める心 3. 未来に期待する心



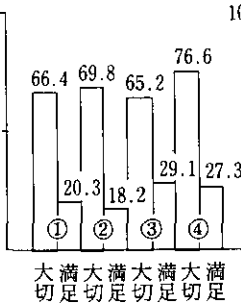
4. 人間関係を大切にする心



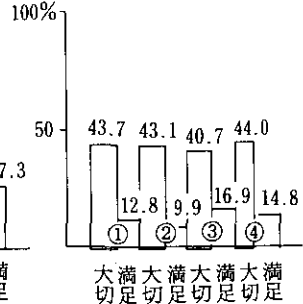
5. 自由を求める心



6. 自分を表現する心



7. 永遠なものを求める心



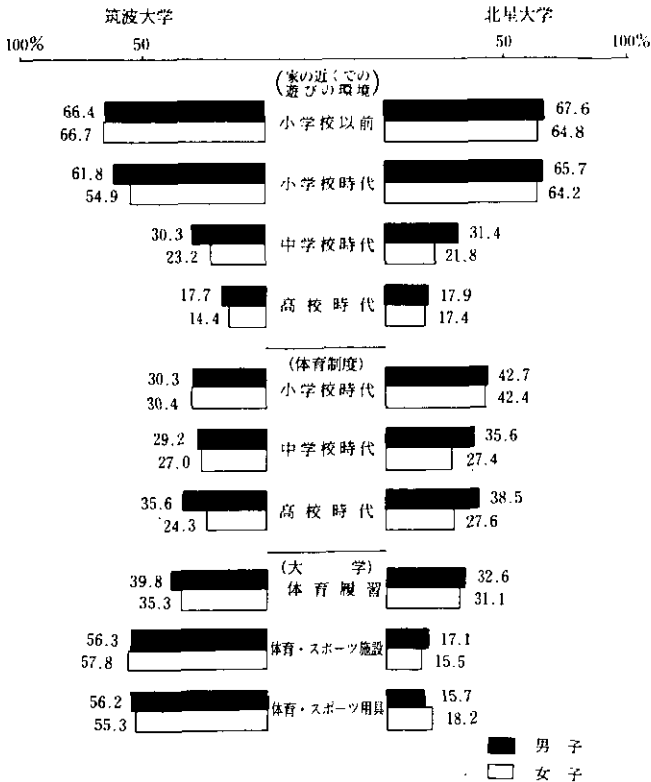
大学教育としての体育

を大切にしているが、満足度の割合が低いことが明らかになった。このことより推察すれば、学生の生きがいを高めるには、人間関係を大切にする中で、変化を求める自己表現していく機会を多くしていく必要があり、正課体育でも、これに対応する具体的なスポーツライフの計画などの面の指導を目指すことと、授業展開の方法等について、検討が肝要である。

III 環境的要因について

(1) 過去・現在の「遊びの環境」の満足度

図 4 スポーツ生活環境の満足度（非常に満足+やや満足）



「遊び」は多くの因子から合成され、分類も多岐にわたっていると考えられるが、今回では、小学校・中学校・高等学校時代のスポーツ・レクリエーション活動を「遊び」として捉えた。そして、「遊び」をとりまく条件を総称して、「遊びの環境」とし、その満足度を調べた。

図4 に示すように、両大学男女ともに類似傾向で、幼児期から小学校時代の「遊びの環境」は、ほぼ満足のいくものであったようである。しかしながら、中学校・高等学校へと移るにつれて、次第に「遊びの環境」に満足できなくなっている。一方、学校体育の制度に対する満足度をみると、本学での小学校時代を除けば、30%前後の満足度であり小学校・中学校・高等学校とも著しい違いはみられない。筑波大では、中学校・高等学校へと女子の満足度は低い割合になっている。

現在の大学に於ける履習についての満足度は、本学男子 32.6% 女子 31.1% 筑波大男子 39.8% 女子 35.3% の満足度を示している。

筑波大男女とも、小学校・中学校・高等学校時代より満足度の割合が高いことに注目すべきところである。また、本学の女子の方も中学校・高等学校を凌いでいる。現在の大学での体育・スポーツ施設、体育・スポーツ用具の満足度は、筑波大の男女とも50%代の満足度に対して、本学男子 15.7% 女子18.2%で 非常に低い割合を示している。

(2) スポーツ経験

表3 スポーツ経験 上位10種目

	北 星 大 学		筑 波 大 学	
	男 子 (%)	男 子 (%)	男 子 (%)	女 子 (%)
1位	野 球 15.9	バレーボール 18.7	軟式テニス 14.3	軟式テニス 18.8
2	卓 球 13.2	軟式テニス 13.7	卓 球 13.7	バレーボール 17.1
3	バスケットボール 11.8	バスケットボール 12.9	バスケットボール 12.6	バスケットボール 13.7
4	バレーボール 10.8	バレーボール 11.6	剣 道 11.4	卓 球 12.1
5	サッカー 10.5	卓 球 6.6	陸上競技 10.7	体操競技 6.4
6	剣道・陸上競技 9.1	ソフトボール 4.5	野 球 10.2	バドミントン 6.2
7		陸上競技 3.9	バレーボール 9.6	陸上競技 5.3
8	軟式テニス 7.4	硬式テニス 3.2	サッカー 7.2	ソフトボール 5.1
9	柔 道 6.4	剣 道 2.4	柔 道 6.8	水 泳 4.9
10	バドミントン 4.9	体操競技 2.1	バドミントン 4.9	硬式テニス 4.8

運動種目の上位10種目を表3で示したもので、両大学の男女とも、第3位に「バスケットボール」がランクされている。本学男子で、「野球」女子で「バレーボール」が首位を占めているが、筑波大男女とも「軟式テニス」である。また、10%以上の種目をあげると、本学男子 5種目、女子 4種目、筑波大男子 6種目、女子 4種目であり、5位めの種目の経験者は、急に割合が低くなる。

環境的要因について、「遊びの環境」は、幼児期、小学校時代は満足度が高いのに、中学校、高等学校と次第に満足度が低下している。

このことは、十分に検討されるべきであるが、1つには、進学競争による勉強時間の拡大、通常時間の増大等、都市化による「遊びの環境」の縮小現象であろうと推察される。一方、現在の大学に於ける履習、および施設用具に関しての満足度では特に筑波大男女とも40%台に近い満足度を現在の履習時で示していることは、正課体育4年間必修の成果か、完備されている体育・スポーツ施設、用具の影響が大きいのではないかと推測される。

要 約

1、北星学園大学男女学生1, 2学年(782名) 筑波大学一般学生1, 2, 3, 4学年(3175名)に対して、「正課体育に関する調査」を作成して、アンケートによる調査を行った。但し「調査」の一部分のみ考察を試みた。

2、身体的能力について 全体的では、9割の者が、健康・体力の双方また、いずれかに自信があり、どちらにも自信がないのは、1割にすぎない。運動能力に対する自信は、男子の方が女子より概して高い割合である。環境適応能力と柔軟性は女子の方が高い割合を示した。

3、精神的能力については、全体的には、生きがい感は高い充実度である。また、「生きがいあり」と「生きがいなし」との2極化の傾向である。男子よりも女子の方が充実感が高いことを示している。

4、環境的要因について「遊びの環境」は、幼児期、小学校時代は満足度が高い、中学校、高等学校へと次第に満足度が低下する。

また、筑波大では、現在の正課体育の履習についての満足度は、40%台の満足度であり、本学は、満足度が非常に低い割合である。

以上、今回行った調査での要約としては、調査結果の分析が、完全に行ない得ない要因が見い出されたが、今回の調査から考えうる問題および課題としては、上記3項目から特に本学と筑波大での環境的要因としての比較において、類似関係であった。しかし、現在の正課体育の履習、施設、用具の項目の満足度は推測できたように顕著な差があった。このことは、保健体育活動の半ばはその施設、用具によるといわれ、他の教育活動以上に施設、設備、用具の果たす役割は、大きいことを再確認した。今後、地域社会との交流の中での公共施設利用を含め、カリキュラムと密接な関連をもった施設・設備の拡充計画を検討することを研究課題としたい。

参考資料

- (1) 神谷美恵子「生きがいについて」みすず書房
- (2) 筑波大学体育センター：大学体育研究第1号，第2号
- (3) 浅田隆夫他：「生活構造を背景とした大学生の体育・スポーツに対する意識構造に関する研究」第28回日本体育学会大会号，1977
- (4) 大石三四郎他：「大学生の体育・スポーツに対する意識と生活との関連」全国大学体育連合 第4号
- (5) 佐渡清隆：国内研修報告書1980

大学教育としての体育

【附属資料】

正課体育に関する調査

この調査は、現在大学において行われている正課体育の実態をとらえるために
行うものであります。そこであなたの回答結果はすべて統計的に処理され、個
人に迷惑をかけることはありません。調査の趣旨を理解して、どうぞありのまま
に設問に答えてください。

下記のコード表および説明事項をよく読んで、該当するものを選び、数字を答
えて下さい。

非記 入欄	学籍番号	学部	学 科	学年	性別	年齢	出身地	課外活動	卒業後の進路 希望

コード表

- ・学 部 1. 文学 2. 経済 3. 商学 4. 人文 5. 工学
- ・学 科 01. 英文 02. 英米 03. 社会福祉 04. 経済 05. 商学
06. 人間科学 07. 経営工学 08. 電気工学 09. 土木工学
10. 建築工学 11. 機械工学
- ・学 年 1. 1年 2. 2年
- ・性 別 1. 男 2. 女
- ・年 齢 (昭和55年5月1日現在の標準年齢)
1. 18歳 2. 19歳 3. 20歳 4. 21歳 5. 21歳
- ・出身地 (高校までに一番長く住んでいた所で、その当時どういう特色地域で
あったか)
1. 工場地域 2. 商店街 3. 住宅地 (団地・分譲地など) 4. 農村
5. 漁村 6. 山村 7. 外国 8. その他
- ・体育系課外活動団体(現在どの団体に入っているか。同好会も含む)
1. アーチェリー 2. アメリカン フットボール 3. スケート 4. 空手 5. 弓道
6. 剣道 7. 硬式庭球 8. 硬式野球 9. ゴルフ 10. サッカー
11. 山岳 12. 柔道 13. バスケッ 14. バレーボール 15. 準硬式野球
16. 水泳 17. スキー 18. 体操 19. 卓球 20. 軟式庭球
21. バドミントン 22. ハンドボール 23. ヨット 24. ライフル 25. ラグビー
26. アイス ホッケー 27. ワンダー フォーゲル 28. 合気道 29. 社交ダンス 30. その他
- ・卒業後の進路希望
1. 農・林・漁業自営 2. 商業・工業・サービス業自営
3. 自由業 (開業医・弁護士・芸術家など) 4. 管理的職業 (15人以上の会
社、官庁などの課長職以上) 5. 専門的、技術的職業 (技師・教育・芸術家
など) 6. 専務的職業 (一般の会社員、公務員など) 7. 労務的職業 (工
員・職人など) 8. その他

Q1 あなたのこれまでの人生を振りかえってみて、体育、スポーツ、遊びの環境はどの程度満足のものであったでしょうか。また、現在の大学での環境に対してはどの程度満足しているでしょうか。あてはまるところに例にならって1つ○印をつけて下さい。

	非 常 に 満 足	や や 満 足	普 通	や や 満 足	非 常 に 不 満 足
例) ○○○○環境.....	1	2	3	4	5
1. 小学校以前の子供時代、家の近くでの遊びの環境...	1	2	3	4	5
2. 小学校時代の体育.....	1	2	3	4	5
3. 小学校時代の家の近くでの遊びの環境.....	1	2	3	4	5
4. 中学校時代の体育.....	1	2	3	4	5
5. 中学校時代の家の近くでの遊びの環境.....	1	2	3	4	5
6. 高校時代の体育.....	1	2	3	4	5
7. 高校時代の家の近くでの遊びの環境.....	1	2	3	4	5
8. 大学の2年間の体育.....	1	2	3	4	5
9. 大学の体育・スポーツ施設.....	1	2	3	4	5
10. 大学の体育・スポーツ用具.....	1	2	3	4	5

Q2 あなたの健康、体力の状態をあなたはどのように自覚されていますか。該当するところに○印をつけて下さい。

1. 健康で体力にも自信がある 2. 健康だが体力には自信がない
3. 健康にも体力にも自信がない

Q3 あなたがスポーツをする際に、次にあげることがらについてどの程度自信をもっていますか。人並み、人並み以上と思うものいくつでも○印をつけて下さい。

- | | | |
|--------------------|---------------|---------------|
| 1. 呼吸機能 | 2. 平衡感覚 | 3. スタミナ |
| 4. 瞬間の腕力 | 5. スポーツ技術習得能力 | 6. 反射能力 |
| 7. 瞬間の脚力 | 8. 注意集中力 | 9. 環境適応力 |
| 10. 重いものを長く持つ力 | 11. 注意配分力 | 12. タフネス |
| 13. 長時間耐えることができる脚力 | 14. 判断力 | 15. リラックスする能力 |
| 16. 柔軟性 | 17. 運動神経能力 | 18. 敏捷性 |
| 19. きょうさ | 20. (運動の)調整力 | 21. 目標遂行能力 |

大学教育としての体育

Q4 現在、あなたは、あなたの生活に全体として生きがいや充実感をどの程度感じていますか。あてはまるものに○印を1つつけて下さい。

1. 非常に充実感がある 2. かなり充実感がある 3. 少し充実感がある
 4. どちらとも言えない 5. 少し充実感が欠如している 6. かなり充実感が欠如している
 7. 非常に充実感が欠如している

Q5 下記にあげた事柄は現在のあなたの生活にとってどれくらい大切なことでしょうか。またそれらはどの程度、現在満たされているでしょうか。例にならつて、両方に○印で答えて下さい。

	どの位大切なことですか。					現在、どの程度満たされていますか。				
	非常に大切にしている	まあ大切にしている	どちらとも言えない	あまり大切にしている	全く大切にしている	十分満たされている	まあ満たされている	どちらとも言えない	あまり満たされていない	全く満たされていない
例) ○○○○とありがたい心 →	1	②	3	4	5	1	2	3	④	5
1. 平和な学生生活を求める心 →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 生活に変化を求める心 →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 未来に期待する心 →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 人間関係を大切にすること →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 自由を求める心 →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 自分を表現する心 →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 永遠なものを求める心 →	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q6 あなたは日頃スポーツや正課体育に参加することに積極的な方ですか、消極的な方ですか。あてはまるところに○印を1つつけて下さい。

1. 非常に積極的 2. 積極的だ 3. 普通 4. 消極的だ 5. 非常に消極的

Q7 あなたの体育実技授業への出席率はどの程度になっていますか。あてはまるところに○印を1つつけて下さい。

1. 90%以上 2. 80%台 3. 70%台 4. 60%台 5. 50%台 6. 40%台

Q 8 大学での体育実技受講のしかたはどんなものがよいと思いますか。あてはまるものに○印を1つつけて下さい。

1. 万べんなく色々な種目を受ける
2. 好きな種目を一種目2年間続けて受ける
3. 好きな種目を受ける(例えば、1年次はサッカー、2年次はテニスのように)
4. 同一の学年は全員同一種目を受ける(例えば、1年次は全員テニスとか)
5. 集団種目と個人種目の両方を受ける
6. その他

Q 9 体育の時間は何時限がよいとおもいますか。あてはまるものに○印を1つつけて下さい。また、()にその理由を書いて下さい。

1. 1時限()
2. 2時限()
3. 3時限()
4. 4時限()
5. どの時限でもよい
6. わからない

Q 10 次にあなたの専攻している学業とスポーツについての関係が5つ述べてあります。あなたの日頃の気持ちに近いものにそれぞれ○印を1つつけて下さい。

	非 よ く 常 あ る に る	よ く あ る	あ ま り な い	全 く な い
1. 授業以外でもまだまだ活力、エネルギーが余っているので、スポーツ活動にあてている。	1	2	3	4
2. 勉強で活力を使い果たしてしまい、自由時間を休養にあてている。	1	2	3	4
3. 学生生活で生じるイライラやモヤモヤや、カラカラな気持ちをスポーツに投入することで忘れまおうとする。	1	2	3	4
4. 専攻している学業だけでは自分の人間形成に不十分なので、スポーツにも力を入れている。	1	2	3	4
5. 専攻している学業に追いまわられてスポーツどころではない。	1	2	3	4

大学教育としての体育

Q11 あなたが生活をしていく上で、次にあげることがらをどの程度重視していますか。例にならって○印を1つつけて下さい。

	非常に大切である	やや大切である	どちらともいえない	あまり大切ではない	全く大切ではない
例) ○○○○すること.....	①	2	3	4	5
1. 国民の平均以上の所得をあげる.....	1	2	3	4	5
2. 社会的に認められている地位を得ること.....	1	2	3	4	5
3. 自分の能力が世の中に認められること.....	1	2	3	4	5
4. 人の役に立つ人間になること.....	1	2	3	4	5
5. 人によろこばれる人間になること.....	1	2	3	4	5
6. たえず自分の地位を高めること.....	1	2	3	4	5
7. 内面的心の充実感を得ること.....	1	2	3	4	5
8. たえず努力を続けること.....	1	2	3	4	5
9. 人に尊敬されるようにすること.....	1	2	3	4	5
10. 向上心を失なわないこと.....	1	2	3	4	5
11. 喜びや悲しみを貴人と共鳴し合うこと.....	1	2	3	4	5
12. グループでものごとをやり遂げようとする.....	1	2	3	4	5
13. 自分の能力の限界に挑戦すること.....	1	2	3	4	5
14. 友情をはぐくみ合うこと.....	1	2	3	4	5
15. 生きる自信を持つこと.....	1	2	3	4	5
16. 人生の厳しさに耐える力をつけること.....	1	2	3	4	5
17. 建設的な態度を身につけること.....	1	2	3	4	5

Q12 あなたは自分の性格を日頃どのようにとらえていますか。次にあげる項目
 の中であなたの性格と一致するものにいくつでも○印をつけて下さい。

1. 建設的	2. 親切	3. 強い	4. 懐疑的	5. 責任感 がある
6. 支配的	7. 外向的	8. 思いや りがある	9. 向上心 旺盛	10. のんき
11. 誠実	12. 批判的	13. ロマン チック	14. 憶病	15. 指導的
16. 慎重	17. 自分勝手	18. 理性的	19. 上品	20. 素直
21. 純感	22. 開放的	23. 競争的	24. 社交的	25. 男性的
26. 病弱	27. 冒険的	28. 陰気	29. 陽気	30. 怠惰
31. 個性的	32. 楽観的	33. 勝負ご とが好き	34. エネル ジック	35. 主体的
36. 明るい	37. 主観的	38. ヒステ リック	39. 自信家	40. 無責任
41. 温和	42. 積極的	43. 不安定	44. 意欲的	45. 反抗的
46. 献身的	47. ヌーモ ス	48. 無口	49. 協調的	50. 攻撃的
51. 内向的	52. 信じ易い	53. 敏感	54. 服従的	55. 客観的
56. 信じない	57. 挑戦的	58. 感覚的	59. 健康的	60. 勤勉
61. 神経質	62. 粗野	63. 暗い	64. 勇敢	65. 衝動的
66. 頼りない	67. 良心的	68. 克己的	69. 劣等感	70. 忠実
71. 情熱的	72. 無気力	73. 大胆	74. 女性的	75. 閉鎖的
76. 厳しい	78. 自己 中心的	78. 強情	79. 創造的	80. 協力的
81. 活動的	82. 進歩的	83. 保守的	84. 冷静	85. 勝負強い
86. 熟慮型	87. たくましい	88. やさしい	89. 探求心 旺盛	90. 強健 自己 啓発型
91. 感情的	92. 孤独	93. 友好的	94. 頼もしい	95.
96. 理想 主義者	97. 悲観 主義者			

北 星 論 集 第19号

射	柔	ソ	体	卓	ダンス	登	な	軟	馬	バ	バ	ハ	フ	ボ	ボ	ホ	野	ヨ	ラ	陸	ロ	ワ						
撃	道	フ	操	球	(モダン・フォーク・ソール)	山	ぎ	式	術	ド	レ	ン	エ	ウ	ク	ット	外	ト	グ	上	ー	ン						
		ト	観				な	テ		ミ	ミ	テ	ツ	リ	ッ	ケ	活		グ	競	ス	ゲ						
		ボ					ニ	ニ		ン	ン	ン	ン	ン	ケ	動	球		ビ	リ	ケ	ゲ						
		ー								ル	ル	ル	グ	グ	ー	(カヌー・スカル・エイトなど)				ン	ー	ル						
		ル	技	技																グ	ト	ゲ						
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54

大学教育としての体育

Q14 あなたが日頃楽しんでいるレジャーにいくつでも○印をつけて下さい。

1. 創作(小説, 詩)	2. 創作(俳句, 和歌)	3. 絵を描く
4. 作曲する	5. 写 真	6. 模型づくり
7. 機械組立て	8. 庭いじり	9. 日曜大工
10. 料 理	11. 編もの	12. 刺しゅう
13. 洋裁・和裁	14. 読 書	15. 研究・調べもの
16. 図書館に行く	17. 音楽会に行く	18. 観劇(歌舞伎・能)
19. 観劇(新派など)	20. 映画(洋)	21. 映画(邦)
22. スポーツ観戦	23. 美術館(館)に行く	24. けいこ(謡・清元など)
25. けいこ(和楽器)	26. けいこ(洋楽器)	27. けいこ(茶)
28. けいこ(花)	29. けいこ(おどり, ダンス)	30. けいこ(料理)
31. 囲 碁	32. 将 棋	33. 麻雀
34. トランプ	35. 室内ゲーム	36. パチンコ
37. スマートボール	38. ビリヤード	39. ルーレット
40. 競 輪	41. 競 馬	42. オートレース
43. 競 艇	44. 博物館	45. 動物園・水族館
46. 遊園地	47. ヘルスセンター	48. つ り
49. ドライブ, ピクニック	50. 潮干狩	51. ハイキング
52. 海水浴	53. 花見旅行	54. 温 泉
55. 寺社まわり	56. 名所, 旧跡めぐり	57. 祭・行事の見物
58. 帰 省	59. 小旅行	60. 海外旅行
61. 避暑	62. 避 寒	63. 別荘生活

01. ゴルフ	02. テニス	03. 乗 馬
04. スキー	05. トレーニング(柔軟・美容)	06. トレーニング(自宅で機械)
07. 卓 球	08. バトミントン	09. スカッシュ
10. アーチェリー	11. トレーニング(センターでの)	12. サイクリング
13. アイススケート	14. ローラースケート	15. ボーリング
16. サッカー	17. バスケットボール	18. 野 球
19. バレーボール	20. ラクビー	21. ソフトボール
22. 水泳(プール)	23. 陸上競技・ランニング	24. アイスホッケー
25. 空手・合気道・拳法	26. 柔 道	27. 剣 道
28. 弓 道	29. レスリング	30. ボクシング
31. フェンシング	32. ボート	33. カヌー
34. 狩 猟	35. キャンプ	36. 登 山(夏)
37. 登 山(冬)	38. 水上スキー	39. ヨット
40. モーターボート	41. スキングイビング	42. トローリング
43. グライダー	44. スカイダイビング	45. 飛行機操縦
46. 気 球	47. その他()	

Q15 現在、あなたがレジャー、スポーツをやって満たされていることにいくつでも○印をつけて下さい。

- | | | |
|-----------------|------------------|-----------------|
| 1. 日常からの解放 | 2. 新しい体験 | 3. つきあいが円滑になる |
| 4. 健康増進 | 5. 自由採択の喜び | 6. 異性を理解できる |
| 7. 鍛 練 | 8. 能力の発揮 | 9. 友人がふえる |
| 10. 休 養 | 11. ストレスの解消 | 12. 新しい交わり方ができる |
| 13. 気分転換 | 14. 精神が安定する | 15. 楽しみがふえる |
| 16. 実益が得られる | 17. 意欲増進 | 18. 気安く話せるようになる |
| 19. 知識・情報を得る | 20. 精神的なゆとり | 21. 喜びを感じる |
| 22. 視野が広がる | 23. 教養が高まる | 24. 疲労感がなくなる |
| 25. 人から認められる | 26. 精神修養ができる | 27. 回復力が高まる |
| 28. 孤 独 | 29. 運動不足の解消 | 30. 悪い遊びから遠ざかる |
| 31. 人間性が高まる | 32. 若さの保持 | 33. 自信を得る |
| 34. 発見の喜び | 35. 美しくなる | 36. 緊張感を得る |
| 37. 創作(造)の喜び | 38. 若返る | 39. 忍耐力を養う |
| 40. 心が豊かになる | 41. 生活にハリができる | 42. 集中力が高まる |
| 43. 個性の発揮 | 44. 自己反省ができる | 45. 統率力が高まる |
| 46. 自然とのふれあい | 47. 人生について考える | 48. 統制力が高まる |
| 49. 技術の向上 | 50. 完成の喜び | 51. 協調力が高まる |
| 52. 社会に貢献できる | 53. 家族とのつながりが深まる | 54. 明朗性が高まる |
| 55. グループ組織力が高まる | 56. 大きな声が出せる | 57. のんびりする |
| 58. 視認力が高まる | 59. 気を配るようになる | 60. 生きている実感を味わう |
| 61. 表現力が高まる | 62. あたまの切替えが早くなる | 63. 食欲増進 |

ご協力ありがとうございました。

Studies on Required Physical Education Courses in College Education

Part II Student Consciousness Revealed in a Survey on the required Physical Education Courses

Kiyotaka SADO

This research is based on a questionnaire which was administered to 782 Hokusei Gakuen College students and 3175 Tsukuba University students. The questionnaire covers (1) physical factors such as health, physical strength and motor ability, (2) motivational factors such as the degree of satisfaction of purposeful living and the desire of satisfaction with play-conditions and sports experience.

The results of the questionnaire for both groups are carefully compared and analyzed. The survey reveals that both groups show almost the same response. However, a conspicuous difference between the two groups is, as anticipated, observed as to the degree of satisfaction in such items as taking required physical education courses, sports facilities, and equipment. This seems to indicate that sports facilities and equipment play a great role in the required physical education course.